

11月に入ってすぐに、就学時健康診断がありました。親にとって、この就学時健康診断は思い出の1ページになる出来事ではないでしょうか。その当時を少し思い出して、今の我が子を見てみると“なんと成長したことか”“やっぱり変わっていないな”とこの数年間の変化を感じることができると思います。子供の個性は親とは違います。親にとっては理解し難い部分もあるかと思いますが、子供たちの個性を尊重しつつ、成長を促しながら子育てをがんばっていきましょう。



◆ステップファイルの保護者欄について◆

ステップファイルを毎週お読みくださりありがとうございます。保護者の皆様からおうちでの様子を教えてもらうことで、子供たちを励ましたり褒めたりと会話がひろがります。保護者の方が気楽に伝えたり相談したりできたらいいな、という思いで保護者欄を設定しておりますが、お忙しい中で負担に思ってしまうこともあるかと思えます。ご覧いただいたらサインやハンコなどの印だけで結構です。無理をせず、保護者の方の都合でご利用ください。

「ほめる」ってむずかしい・・・

Q. 「これやったら、〇〇買って〜。」と言われるのですが、いいのでしょうか。

A. ご褒美は必要です。しかし、長くは続きません。



「にんじんをぶら下げて」という言葉がありますが、ステップ教室でも課題を達成した先には、がんばったご褒美として「ゲーム」という名の「かるた」や「なぞなぞ」「モザイクパズル」を行うことがあります。どれも『聞く』『協力する』『譲る』『我慢する』『ルールを守る』などの目的があるものです。それ以上に、早く終わらせようと集中した行為を褒めることが、大きな目的です。

ご家庭ではどうでしょうか。「〇〇をしたら、▲▲をする。」という条件つきで、やる気を引き出すこともあると思います。条件つき、つまり『外発的動機づけ』では、〇〇への関心はおろか、「できた」という自己肯定感を抱きにくくなります。興味を引くのは簡単ですが、持続性がありません。

これに比べ、『内発的動機づけ』は時間が掛かりますが、長期で見れば自己肯定感（「自分はやれる」「自分はできる」と自分を認めること）が育っていきます。では、こういった言葉がけをすればいいのでしょうか。それは、「行為を褒める」「やろうとしている心を褒める」ということです。例えば、なかなか宿題をやらなかったときでも、“手伝いをしてくれた”などの褒めるタイミングがあったときには褒め、やり始めようとしたら「がんばろうとしていてえらい!」と褒めてあげてくださいね。